提出日平成17年5月13日

調 査 航 海 概 要 報 告 書

1. 航海番号／レグ名／使用船舶 ：YK04-08/Leg 1/よこすか
2. 研究課題名 ：南東太平洋における古地磁気変動及び海洋表層環境変動の研究
   提案者／所属機関／課題受付番号 ：山崎俊嗣／産業技術総合研究所／S04-39
   研究課題名 ：日仏共同ポリネシア海底調査・観測による南太平洋大海膨及びホットスポットの成因解明
   提案者／所属機関／課題受付番号 ：末次大輔／海洋研究開発機構／S04-07
3. 首席研究者／所属機関 ：山崎俊嗣／産業技術総合研究所
4. 乗船研究者　末次大輔、金松敏也、塩原肇、杉岡裕子、大野紘介、磯野大、稲垣正樹
5. 調査海域：南東太平洋、フレンチポリネシア
6. 実施期間：平成16年8月12日～9月8日

調査航海概要

（1）南東太平洋における古地磁気変動及び海洋表層環境変動の研究

南部東太平洋海膨の西麓及びフレンチポリネシア・ツアモツ諸島北麓において、ピストンコアラーを用いて海底堆積物採取を行った。コア採取地点選定のため、SeaBeamによる海底地形調査を行った。また、PC1, PC2地点においては、シングルチャンネル音波探査を行った。以下の表にコア採取の概要をまとめた。

番号	日付	緯度	経度	水深	コア長	岩相
PC1	8/20	38°35.87’S	125°46.77’W	4436m	4.9m	赤色粘土
PC2	8/24	31°32.58’S	121°16.11’W	3669m	7.1m	石灰質粘土、一部赤色粘土
PC3	8/25	31°44.25’S	115°35.99’W	3280m	7.2m	石灰質粘土
PC4	9/3	17°34.47’S	137°05.39’W	3243m	12.0m	石灰質軟泥
PC5	9/4	16°05.18’S	139°26.22’W	2420m	12.6m	石灰質軟泥

計画では、南緯40度以南でコア採取を行う予定であったが、海況不良のため実施できなかった。採取されたコア試料について、船上で、岩相記載、色反射率測定、サブサンプリング（古地磁気、有機物、酸素同位体比、微化石分析用）を行った。

(2) 日仏共同ポリネシア海底調査・観測による南太平洋大海膨及びホットスポットの成因解明

フレンチポリネシア海域の６地点において、2003年１月に設置した広帯域海底地震計の回収を試みたが、うち１地点のみにおいて、音響切り離しに成功し回収した。２地点で、新たに海底地震計の設置を行った。